

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。



自転車の交通事故発生状況

令和6年8月末



1 自転車の交通事故発生状況

令和6年8月末現在の自転車事故（同乗者を含む自転車乗用者が死傷した交通事故）は、前年と比較して、発生件数及び死傷者数ともに増加しています。

【自転車の交通事故発生状況】

（令和6年8月末速報値）

区分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件数	死者数	重傷	軽傷	計
本年	373	5	5	55	316	371
前年	334	2	2	51	282	333
増減数	39	3	3	4	34	38
増減率	11.7	150.0	150.0	7.8	12.1	11.4

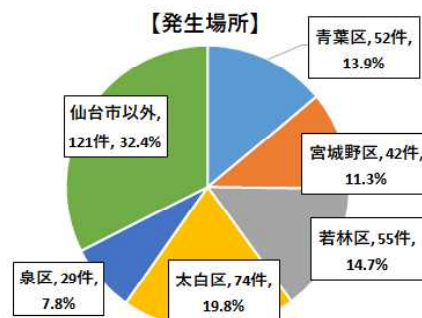
【自転車の交通死亡事故一覧】

No.	発生年月日等							発生場所	路線	形状	事故類型	死者 高齢者
	年	月	日	時	曜	昼夜	天候					
1	6	1	3	17	水	夜	晴	栗原市築館	市道	直線	自転車単独	◎
2	6	3	4	15	月	昼	晴	仙台市太白区袋原	市道	直線	四輪対自転車	◎
3	6	4	23	9	火	昼	曇	塩釜市東玉川町	県道	交差点	四輪対自転車	◎
4	6	5	25	19	土	夜	晴	大河原町金ヶ瀬	町道	直線	四輪対自転車	◎
5	6	6	10	19	月	夜	晴	蔵王町大字矢附	町道	直線	四輪対自転車	◎

2 仙台市内の自転車交通事故の発生状況

県内の自転車事故の約7割(373件中252件、67.6%)が仙台市内で発生しており、内訳は、太白区が74件で最も多く、次いで若林区55件、青葉区52件と続いています。

また、仙台市内の自転車事故も、前年と比較すると、発生件数及び死傷者数ともに増加しています。



【仙台市内の自転車の交通事故発生状況】

（令和6年8月末速報値）

区分	発生件数	死亡事故		負傷者数		
		件数	死者数	重傷	軽傷	計
本年	252	1	1	25	228	253
前年	226	0	0	30	197	227
増減数	26	1	1	-5	31	26
増減率	11.5	-	-	-16.7	15.7	11.5

3 自転車が第1当事者となった事故の発生状況（基礎データ令和元年～令和6年8月末速報値）

令和6年8月末現在の自転車が第1当事者となった人身交通事故は、前年と比較すると対歩行者事故が8件で3件減少し、対自転車事故が5件で4件増加となり、合計発生件数は17件で、2件増加となっています。また、死亡事故が単独で1件発生しています。

区分	自転車×歩行者			自転車×自転車			自転車×二・四輪車			自転車単独			計		
	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者	件数	死者	負傷者
令和元年	27	0	27	13	0	13	4	0	4	2	1	1	46	1	45
令和2年	22	0	22	11	0	13	4	0	6	1	1	0	38	1	41
令和3年	14	0	14	8	0	10	0	0	0	0	0	0	22	0	24
令和4年	15	0	15	6	0	6	3	0	4	4	2	2	28	2	27
令和5年	20	0	21	8	0	8	6	1	5	3	1	2	37	2	36
令和6年8月末	8	0	8	5	0	6	3	0	3	1	1	0	17	1	17
令和5年8月末	11	0	12	1	0	1	3	1	2	0	0	0	15	1	15
前年比	-3	0	-4	4	0	5	0	-1	1	1	1	0	2	0	2

※百分率は小数第二位で四捨五入するため、合計が100%にならない場合があります。

4 自転車事故の発生推移 (基礎データ平成26年～令和5年)

令和5年中の発生件数は、ピーク時である平成16年(2,208件)の3割以下まで減少し、平成22年以降は、右肩下がりの減少傾向となっています。

死者数は、平成24年以降は7人以下で推移しているものの、近年は3人ずつの死者数で、下げ止まりの傾向となっています。



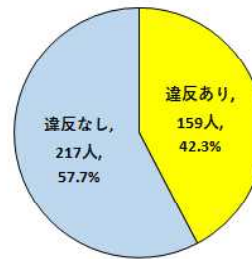
5 自転車事故の特徴等 (基礎データ令和6年8月末速報値)

(1) 死傷者の4割以上に違反

自転車乗用中死傷者の4割以上(376人中159人、42.3%)に違反が認められます。

違反別では、動静不注視が最も多く、違反の約5割(159人中81人、50.9%)を占めています。

【自転車死傷者の違反】



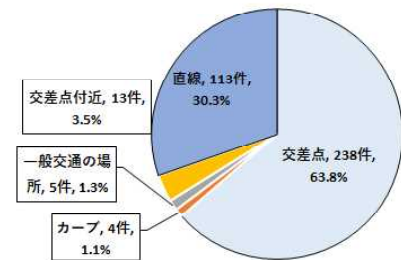
違反種別	人数
安全不確認	37人
動静不注視	81人
操作不適	1人
前方不注意	5人
交差点安全	6人
通行区分	4人
一時不停止	2人
信号無視	2人
他の違反	21人
違反なし	217人
合計	376人

(2) 交差点での発生が多い

道路形状別では、6割以上(373件中238件、63.8%)が交差点で発生し、全事故の構成率(2,394件中960件、40.1%)を23.7ポイント上回っています。

また、事故類型別では、出会い頭の事故が約5割(373件中185件、49.6%)を占めており、全事故の構成率(2,394件中554件、23.1%)を26.5ポイント上回っています。

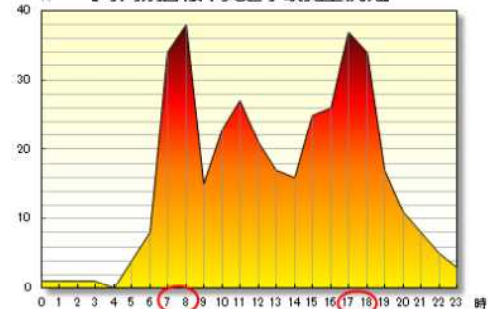
【道路形状別自転車事故】



(3) 朝夕の通勤・通学時間帯の発生が多い

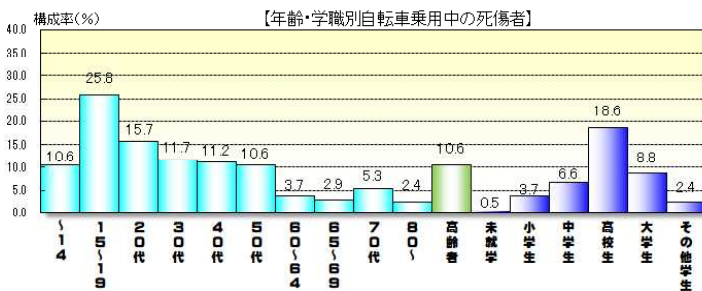
発生時間別では、朝の7時台～8時台と夕方の17時台～18時台の通勤・通学時間帯に多く発生しています。

【時間別自転車交通事象発生状況】



(4) 高校生の事故が多い

年代別では、15～19歳の死傷者が97人(25.8%)と最も多く、学職別では高校生が70人(18.6%)と多くなっています。



区分	計	年代別Ⅰ										年代別Ⅱ						学職別					
		～14	15～19	20代	30代	40代	50代	60～64	65～69	70代	80～	高齢者	未就学	小学生	中学生	高校生	大学生	その他学生					
死傷者数	376	40	97	59	44	42	40	14	11	20	9	40	2	14	25	70	33	9					
死者数	5	0	0	0	0	0	0	0	0	4	1	5	0	0	0	0	0	0					
負傷者数	371	40	97	59	44	42	40	14	11	16	8	35	2	14	25	70	33	9					

(5) ヘルメットの着用率が低い

自転車乗用中の死傷者376人のうち、ヘルメットを着用していたのは56人(14.9%)で、着用率が2割以下となっています。

また、ヘルメット非着用者320人のうち50人(15.6%)は、ヘルメットを着用していれば負傷の程度を軽減できたと考えられます。

	死亡	重傷	軽傷	死傷者計
着用	1	7	48	56
非着用	4	48	268	320
うち効果あり	4	10	36	50